

令和 7 年度 活動成果評価委員会 評価のまとめ

1. 全体の評価点について

■総合評価点	4.3
・ 博士課程大学院コース及びインテンシブコース入学者数	3.9
・ 各職種における専門・認定資格取得状況・実績	3.7
・ 学位(修士・博士課程)取得状況・実績	3.9
・ 論文発表数、学会発表数	4.9
・ プロジェクト統括会議(内部評価)の実施体制	4.9
・ 活動成果評価委員会(外部評価)の実施体制	5.0
・ プロジェクト運営推進委員会の実施体制	4.9
・ 特定非営利活動法人近畿がん診療推進ネットワークとの協力体制及び連携体制	5.0
・ 【定性2】次世代のがん専門医療人の育成のための体系的教育システム構築及び環境整備	4.9
・ 【定性3】情報発信及び普及	4.7
・ 【定性4】第二回活動成果評価委員会からのフィードバックに対する対応	4.1

2. TF ごとの評価点について

■総合評価点【TF 1】	4.1
① TF の課題解決に必要な人材育成の取り組み状況	4.0
② インテンシブコース、レクチャー、セミナーの開催	4.3
③ 連携大学共同プロジェクトの進捗報告	4.3
■総合評価点【TF 2】	4.4
① TF の課題解決に必要な人材育成の取り組み状況	4.6
② インテンシブコース、レクチャー、セミナーの開催	4.7
③ 連携大学共同プロジェクトの進捗報告	4.1
■総合評価点【TF 3】	4.0
① TF の課題解決に必要な人材育成の取り組み状況	3.9
② インテンシブコース、レクチャー、セミナーの開催	4.7
③ 連携大学共同プロジェクトの進捗報告	3.6

活動成果評価委員からの コメント抜粋

1.評価いただいた点

(受入人数関連)

- ・ 大学院入学者数が目標値に達しなかった点は残念であるが、多職種にわたる入学者の確保や、インテンシブコースの入学者が目標を上回った点は十分に評価できる。
- ・ 腫瘍内科医や血液内科医に加え、昨年度の課題であった放射線治療医、緩和ケア医、分子病理医などの入学者もあり、専門分野の広がりが見られて大変評価できる。
- ・ 特に緩和ケアおよび分子病理の分野で学生の確保ができた点は素晴らしい。
- ・ 看護の視点から見ても、大学院コースおよびインテンシブコースの入学者数が充実しているため、今後も引き続き入学者確保に努めてほしい。

(事業内容・セミナー関連)

- ・ がんプロ事業は順調に進み、セミナーやイベントが多方面で充実している。TF1の研究シンポジウムでは一流の講師が参加し、学生にとって非常に有益な学びの場となった。また、がんプロ研究シンポジウムでは大阪大学との拠点間連携企画も成功し、多職種から多数の参加者が集まったことは大変素晴らしい成果である。今後も引き続き開催を期待する。
- ・ TF2 および TF3 のセミナーやイベント、チーム医療に関わる SP・CS 演習も実践的に行われており、対面開催によって参加者が増加している点は称賛に値する。特に TF2 の取り組みは積極的でプレゼンも印象的である。神戸大学保健学研究科の実践経験を生かした講演のようなセミナーの継続企画も望まれる。
- ・ 教育内容の質はビッグデータでの評価以上に評価されており、工夫次第でさらに人材確保につながる可能性がある。看護分野では大阪公立大学の入学者数が多く、教育内容も充実していることが評価されている。
- ・ ImNET5 の他施設での検討による底上げや、院生の論文発表の流れも良好である。

(情報発信)

- ・ 阪神5大学HPについて広報を充実させてほしいと依頼していたが、今回がんプロの動きがとても分かりやすく一般市民に対しても活動していることが分かり、オンタイムにアップデートされ充実していたことがとてもよかった。

(その他)

- ・ 研究論文の発表については前年度比増ということで、研究に関する充実の成果は高く評価できる。
- ・ プロジェクト統括会議や運営推進委員会、外部評価委員会など、運営面の会議体は定期的に行われており、課題の共有や軌道修正がなされている点は評価できる。

2.改善を要す点・その他ご提案

(受入人数関連)

- ・ 大学院生の入学状況について、TF1・2には一定の入学者がいる一方で、TF3の入学者数が少ないことは課題である。良いプログラムが整っているため、やる気のある学生に積極的に声をかけることが重要と考えられる。
- ・ 人材育成コースの参加者確保に向けては、若手医師や研究者が参加しにくい原因を明確にし、その解決策を講じることが求められる。
- ・ 全国のがんプロ修了生が地域医療にどのように関わっているかを、講演や研究成果の発表などで具体的に示すことが重要である。これにより、一般市民や今後の受講希望者に魅力を伝えられ、患者側からも活躍する姿を見たいというニーズに応えられる。
- ・ 5大学の研究力は大きな魅力であるため、広報活動を工夫しつつ、次年度以降も順調な活動継続を期待する。
- ・ 薬剤師の学生確保は難しい課題であるが、高知県立大学・関西医科大学の活動報告のように、人数ではなく活動内容を重視したPRを行うことで改善が図れる可能性がある。

(事業内容・セミナー関連)

- ・ 実際の患者様の声を聴く患者会のようなものがあれば、より良いのではないか。
- ・ 一般の市民やサバイバーを含め、関心がある点を調査し、多くの方に進んだがん医療やケアの充実を広めてほしい。

(その他)

- ・ がんプロの広報活動(ホームページ刷新、SNS発信)は進行中だが、活動内容、専門資格者や卒業生のキャリア、研究成果をわかりやすく伝える工夫で認知度向上をさらに図ってほしい。特に、社会・医療現場への成果の還元や患者側への情報発信も強化を望む。
- ・ 会議では収支管理や実績報告の割合が高く、教育の質や社会実装を議論する時間の確保が課題である。進捗管理は適切に実施されているが、成果が社会実装や他タスクフォースとどう連携しているかの可視化が必要である。
- ・ 研修成果の評価や修了後の実践反映が見えにくい現状があり、模擬患者を用いた演習など多職種での議論を通じて学びを臨床へ活かせる体制づくりが求められる。
- ・ 予防医療、ゲノム医療、遺伝カウンセリング、がんリハビリテーションなど幅広い教育コースは存在するが、特に治療開発人材(FIH、Phase I対応者)や放射線治療・核医学の専門人材育成は不足しており、育成プロジェクトの強化が必要である。
- ・ 薬物療法専門医の資格取得者数が少なく、入学者数や取得率のデータ分析による要因解析と対策も考慮すべきである。
- ・ 患者参画の推進やAIによる判断支援の活用、臨床試験検索システムの改善など、患者中心の視点と最新技術の活用も期待されている。
- ・ 活動報告資料の質にばらつきがあり、特にTF3の議事録などが不足していることから、報告体制の統一化・充実化を図ってほしい。
- ・ 各大学間の連携強化とミッション理解の深化による講義や連携プロジェクトの見直し、今後の成果向上に不可欠である。